

CEOとその
プロフェッショナリズム

計士連盟の実行委員会に出席するため、たまたま同じ会場に来られたため、予定を変更して急速の会議に参加していた。日本代表として出席することになっていた大学教授が、日本もADBに金だけ出して「われらのうわけではなく」と日本の対応のますさに憤慨したからであった。「ミスター・チャーチー」私はお、A等の日米のシステムの違いを述べ、英米のようじ企業内CPAはなんにしても日本の企業会計に関するす



国の一層の経済発展に寄与せんとする、総合会計師としての専門性を高めなための「プロフェッショナル・Chief Financial Officer」を目指す、企業内会計士としての専門性を高めなための「プロフェッショナル・内部監査士」の養成を目指しておられます。

当時、公認会計士協会会長になつたばかりの私は、この会議に出席する予定ではなかつたのだが、CAPAアジア・太平洋会議の開催が決まり、その運営委員長としての立場から、必ず出席する予定となつた。

太平洋開発融資会議ADB・アジア開発銀行等主催のあふればかりの聴衆の前にそのように述べた。

日本 本じう国は大変分かれにく国でも、アジアにおける経済的先進国といわれているのにC.P.A.が数千人しかいないといふ。われわれは、アジア・太平洋地区の開発に関連するマイナンス上で、今後その財務のタイプマスターをはじめとして必要な情報と保証などをつオロしなければなりません。せんが日本をパートナーとして期待するだけではなく、世界銀行World Bankの理事長のチ

人の質の高さや人数について説明し、前言を撤回し誤解を解くように要請した。一〇年ほど前の話である。我が国の企業会計やその開示制度、あるいは公認会計士制度とその運用等は、当時よりは段階の進歩を遂げている。しかし、わが国の企業会計や監査の実務に関する議論は、海外からは必ずしも分かりにくく、姿であることは本質的に変わらない。米国の大CPA三四万余人に対して日本のCPAは会

(注)中国における公認会計士